

電波観測部門報告 No. 217 The Report of Radio Meteor Observation in JAPAN

電波観測部門担当幹事 小川 宏 (Hiroshi Ogawa)
h-ogawa@nms.gr.jp

1. 1月度 定常観測報告

1月度定常観測を頂いたのは以下の方々です。(敬称略)

藤戸健司(三重)、坪井正紀(広島)、杉本弘文(東京)、相原正己(神奈川)、三部重雄(北海道)、
吉川泰史(愛知-28MHz)、久保田麻三留(神奈川)、齊藤直也(東京)、江原稔(埼玉)、
川口市立科学館[松田正彦](埼玉)、青森県立十和田工業高校無線部(青森)

2007年1月の流星電波観測結果国内統合グラフを図1に示します。しぶんぎ座流星群の活動は、最終的に2005年と同規模レベルという算出結果になっています。国内53MHzの結果を図2に示します。図2は、広島県の坪井氏による観測結果です。図3には、愛知県の吉川氏による28MHzの観測結果です。

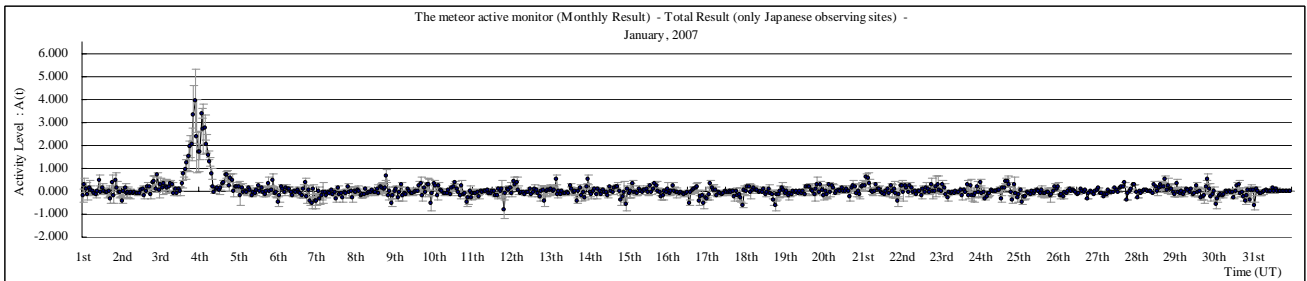


図1. 2007年1月流星電波観測 観測結果 (全国統合データ)

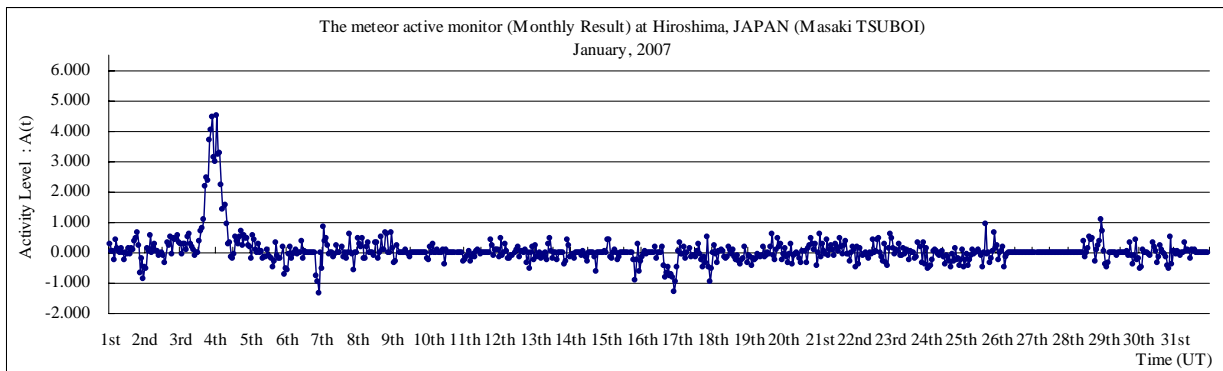


図2. 2007年1月流星電波観測 観測結果 (53MHz 坪井正紀氏)

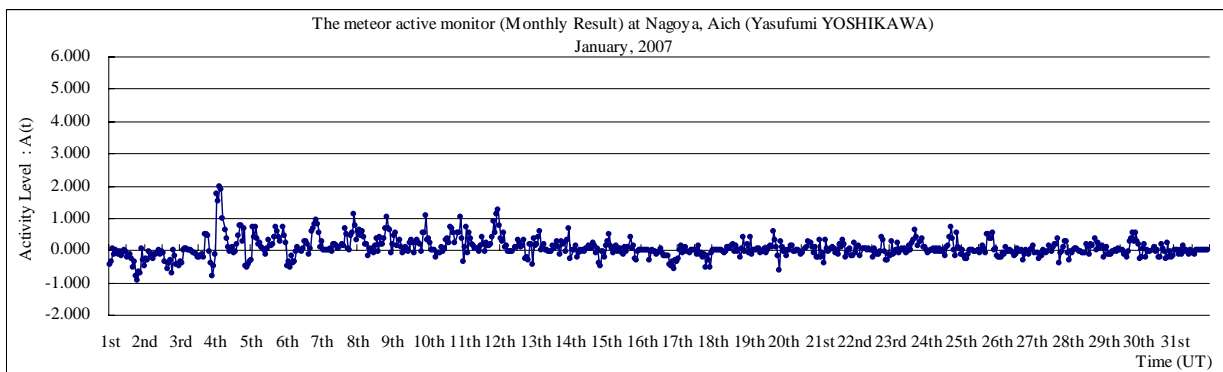


図3. 2007年1月流星電波観測 観測結果 (28MHz 吉川泰史氏)

53MHz では、しぶんぎ座流星群の活動が活発に捕らえられているのに対し、28MHz では、ほとんどその活動が捕らえていません。これは、例年同様の傾向を示しており、28MHz ではしぶんぎ座流星群の活動はほとんど顕著に出てきません。これがなぜか・・・何か考察したような気がするのですが・・・ちょっと資料が探せきれなかったので、次回またご報告したいと思います。

今回、28MHz で上旬に A(t) 1 を超える活動が見えており、明らかに、下旬よりも活動が見られます。昨年はこのような傾向はありませんでしたが、偶然の産物なのか、活動があったのか、眼視観測の結果とも照合し、今後の解析結果が待たれます。

3. 3月観測指針

3月も、2月に引き続き、例年流星電波観測で検出できるような流星群の活動は例年ありません。ただし、先月号にも記載しましたが、2月・3月と主要流星群はありませんが、日々のデータを確実に蓄積することは非常に重要なことです。また、突発出現がないとは断言できませんので、突発出現のモニターとともに、これまで観測してきたデータをまとめたり、機材のチェックをしたりと、引き続き観測をお願いいたします。図4に2006年3月の全国統合データを掲載しておきます。

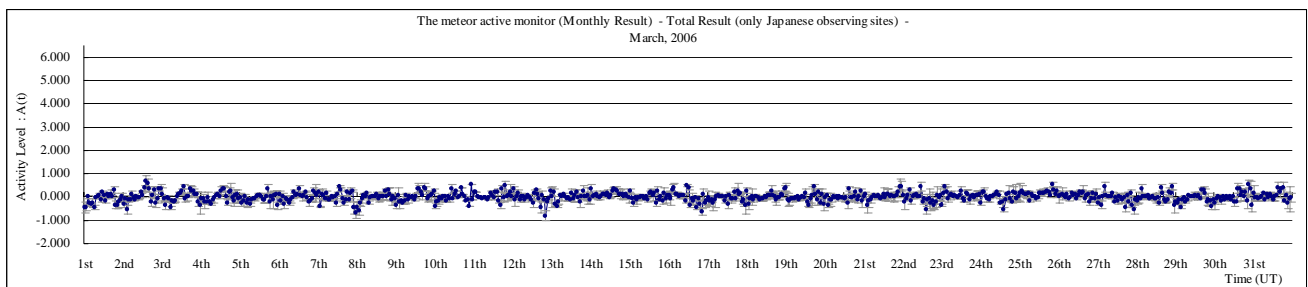


図4. 2006年3月度 全国統合データ

みなさんの観測結果や解析・研究結果を是非お寄せ下さい

天文回報では、日本流星研究会会員の方々から寄せられました観測結果や研究・解析結果に加え、流星電波観測国際プロジェクトで報告されているデータを取り扱います。流星電波観測国際プロジェクトについて、詳細は、<http://www.amro-net.jp> をご参照下さい。

みなさまからのご寄稿お待ちしております。原稿等については、Word・一太郎・LaTeX など、おおよそのファイル形式では対応できます。毎月5日を締切とし、翌月天文回報の原稿に掲載させていただきます。宛先は、h-ogawa@mms.gr.jp まで